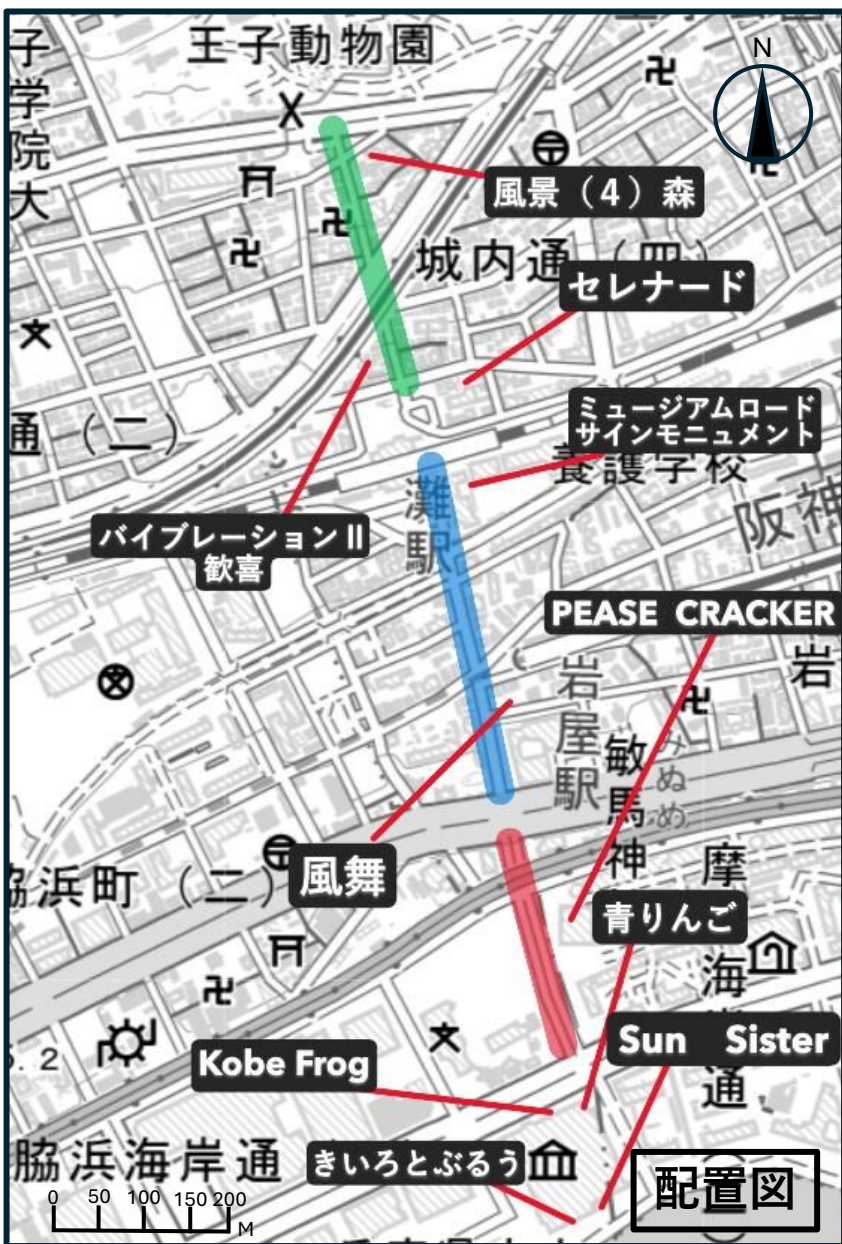
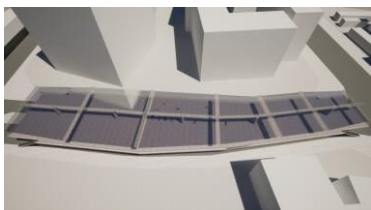


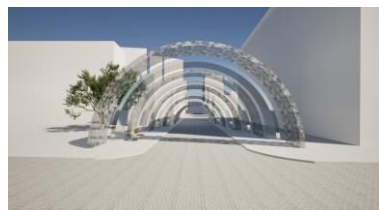
天空テラス



今回のミュージアムロードを3つの区間に分けてそれぞれ異なる楽しさを体験しながら歩けるような構成にした。



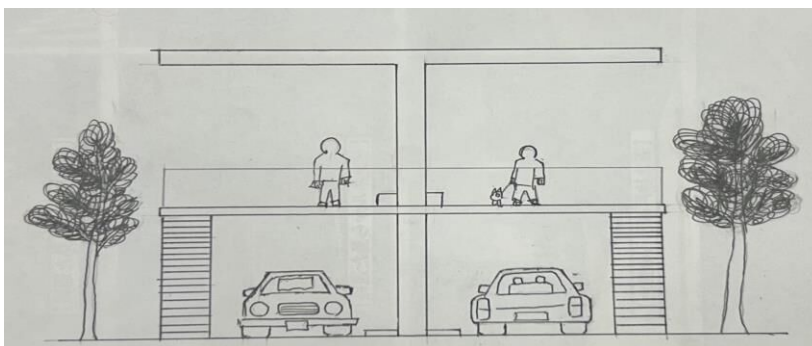
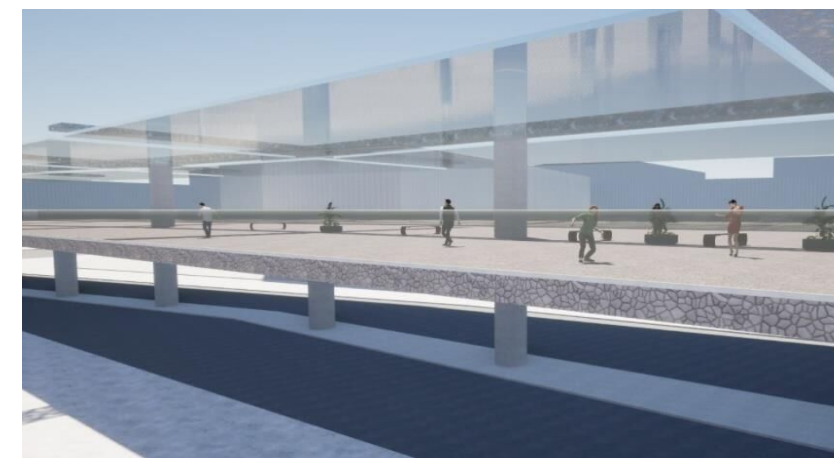
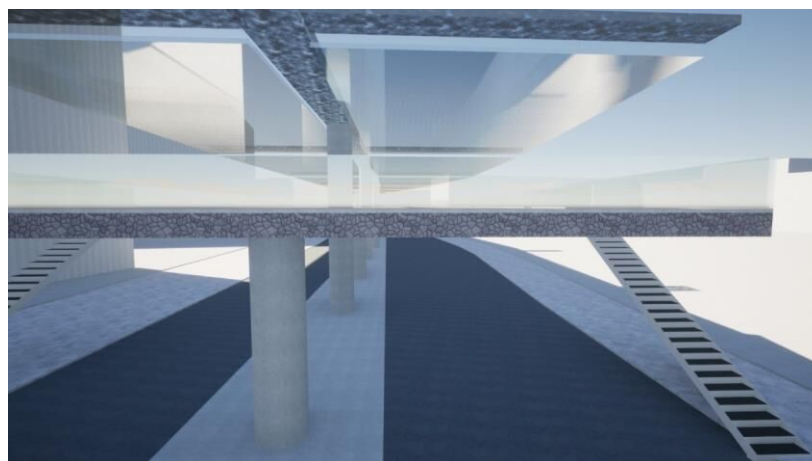
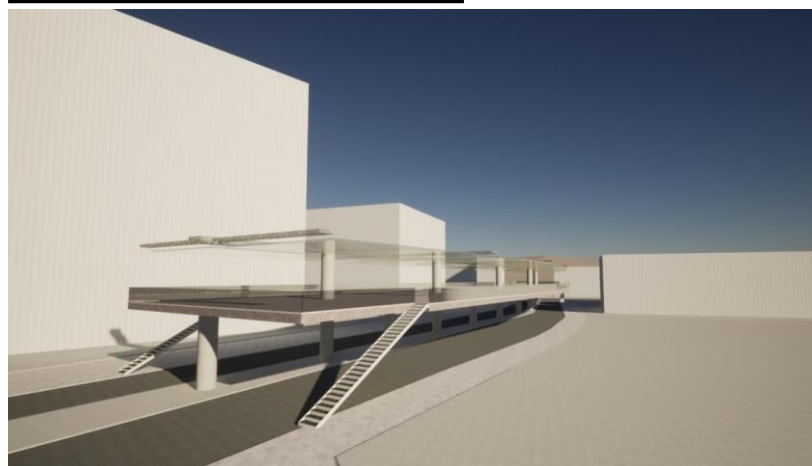
1つ目の区間 (赤)



2つ目の区間 (青)



3つ目の区間 (緑)



天空テラスでの交流と安全

このテラスは、地域住民の生活の質を向上させ、都市の活性化に貢献することを目的としている。まず、テラスの設置により、地域内の主要な施設や商業エリアへのアクセスが向上し、住民利便性が高まる。特に、交通量の多い道路を安全に横断できるようにすることで、高齢者や子供たちの安全が確保され、安心して外出できるようになる。また、テラスは、新たな交流の場としての役割も担います。休憩スペースやイベントスペースを設けることで、地域住民が集まり、交流する機会を創出し、コミュニティの活性化につなげる。さらに、テラスのデザイン自体が、地域のシンボルとなり、観光客の誘致にも貢献する。テラスからの眺望は、地域の魅力を再発見するきっかけとなり、観光資源としての価値をたかめる。

神戸の歴史と文化が息づくミュージアムロードに、過去の記憶を尊重しつつ、未来への創造性を育む新たな歩道橋テラスを提案します。

兵庫県立美術館から阪神高速3号神戸線区間を設計した。上空6mにテラスを設け、そこから街の風景やアート作品を楽しめる。屋根はガラス張りになっていて、雨や風を凌げるようになっている。

ミラージュ・ゲート

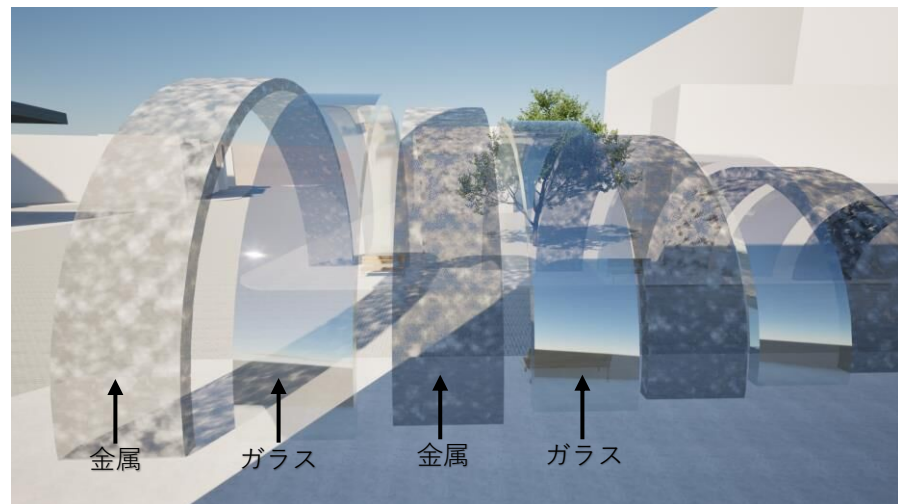
ミラージュ・ゲートは、個人のプライバシーを保ちながらも、共用のスペースを提供することで、歩行者同士の交流を促すものである。これによって、孤独感の解消や新しいコミュニティの形成が期待される。



ミラージュ・ゲートの造形のアイデア

重厚感・機械的印象を与える金属と軽やかさ・透明感を与えるガラスを交互に組み合わせることで近未来的な雰囲気強調する。硬質と透明の対比的空間に洗練された美学を生み出す。

昼間は金属の反射とガラスの透過が明るく、多様なハイライトが生じる。夜間はガラスを通る間接照明が柔らかさを増し、金属の反射が鋭さを残すことで、異なる時間帯の表情をつくりだす。



楽しく歩ける道

歩行者が「楽しく歩ける道」を実現するために3つの要素を設けた。

1つは、歩道の幅を広げることで、その空間に交流の場を設け、地域のコミュニティを活性化させる。歩行者が集まる場所を作ることで、地域の魅力を高めることができる。

2つ目は、ミラージュ・ゲートを通じて、景色を感じて楽しく安全に自然や文化に触れることができる。

3つ目は、夜は一時的に車の交通を開放してライトアップすることで、昼間だけでなく夜までイルミネーションとして楽しめる。

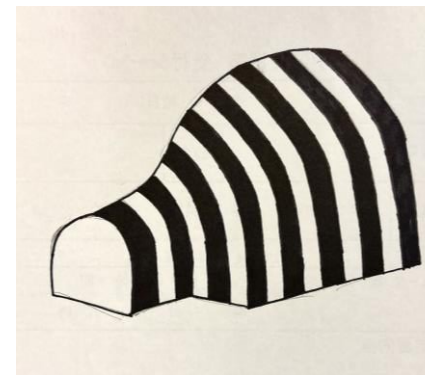


ゲートのダイアグラム

動物園側に行くにつれてゲートが大きくなることで解放感を表現し、美術館側に行くにつれてゲートが小さくなることで洗練された感覚を表現している。さらに金属とガラスのゲートは短めにすることで見ていても面白い造形となっている。



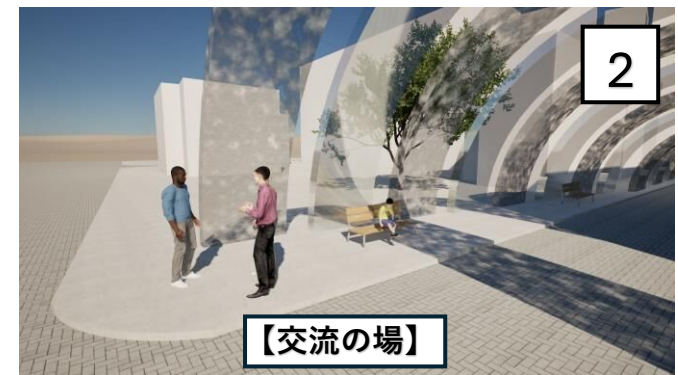
シンプルなトンネルだと単調な感じになってしまう



ガリバートンネルのように段々と小さくなっていく



ミラージュ・ゲートの完成



ミュージアムスカイロード

灘駅から王子動物園

- ・灘駅から阪急神戸線までの区間と阪急神戸線から王子動物園までの2区間に分けて設計した。
- ・車と歩行者の動線を分け新しい景色の発見に繋げ、アート作品を楽しめる街の景観を意識した。



【王子動物園前通路】



【ストリートプリント】



【阪急神戸線からの景色】



【高架下から灘駅方向】



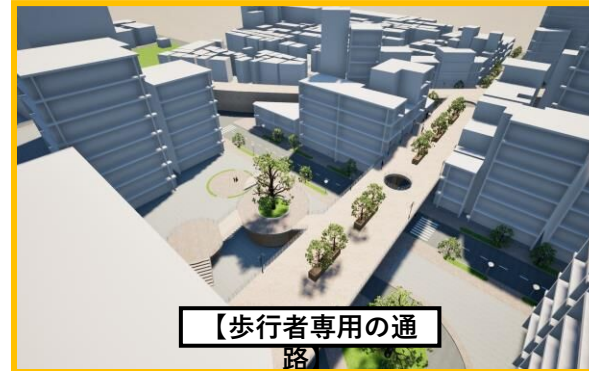
【駅前のロータリー】



【トンネルから見た通路】



【駅前広場の階段】



【歩行者専用の通路】



【西灘原線から見た通路】

【灘駅から阪急神戸線】

灘駅から阪急神戸線高架下まで続くミュージアムロードの6m上部に歩行者専用の通路を設計した。この通路は交通の円滑化と新しい街並みの発見に役立つ。通路には街灯や街路樹を一定間隔で配置した駅前広場には通路に続く階段を設けた。

【阪急神戸線から王子動物園】

王子動物園付近の道路には動物の絵柄のマンホールが点在するため道路に円状の模様や既存のアスファルト舗装を石畳やレンガ調にするストリートプリントを施した。

【ミュージアムスカイロード】

ミュージアムロード上部に新しく設計した歩行者専用の通路は格子状の柱を5m間隔で設置し交差点付近に自然光を取り入れるため円状の穴を開けた。また、この通路は新しい景色の発見に繋がるだけでなく通路沿いの建物同士の関係性を強め地域の人たちの交流の場や休憩スペースとしても利用が可能。

